

2025年度 冬期講習会

新高1 英語総合 S

No43~No46

NOTE

Vocabulary Notebook + Full Translation

No 43.

【3】

(1) [最上級]

神が人間と *beasts* を創造したとき、彼はその間に大きな *gap* を作った。犬はその *gap* を見て走り出し、人間のもとへ *leapt* した。この話は人間と犬との特別な関係を説明しようとするものである。犬は最初に *tamed* された動物であり、*ancient* な時代からの親密な関係が、犬をすべての動物の中で最も *responsive* で *obedient* な存在にした。

1. *beast*[bí:st][名]獣、動物
2. *gap*[gæp][名]隔たり、差
3. *leapt*[lépt][動]跳んだ(*leap* の過去形)
4. *tamed*[téimd][形]飼いならされた
5. *ancient*[éinjənt][形]古代の、昔の
6. *responsive*[rispánsiv][形]反応の良い
7. *obedient*[oubí:diənt][形]従順な

(2) [one of the 最上級+複数名詞]

現在、香港は中国の支配下に戻ったが、今でも他の中国の都市とは異なっている。*It seems* に、香港が誰のものであろうと、それは常に *unique* で素晴らしい場所であり続けるだろう。イギリスはこの都市を *shaping* するのに最善を尽くし、今や中国の番である。だがどんなことがあろうと、香港は常に世界中でもっとも刺激的で、もっとも *fascinating* な都市のひとつである。

1. *unique*[ju:ní:k][形]唯一無二の
2. *turn*[té:rn][名]順番、番
3. *impression*[impréʃən][名]印象
4. *fascinating*[fæʃənèitiŋ][形]魅力的な

(3) [the 最上級 (名詞) that S have ever 過去分詞]《中央大》

Capitalism は世界がこれまでに知ってきた中で最も *successful* な *wealth*-を生み出す *economic system* である。他のどの制度も、この *distinguished* な *economist* ジョセフ・シュンペーターが指摘したように、「*the common people*」にこれほど *benefited* したものはない。

1. *capitalism*[káepətəlizəm][名]資本主義
2. *successful*[səksésfəl][形]成功した
3. *wealth*[wélθ][名]富
4. *economic*[èkənámik][形]経済の
5. *distinguished*[distíŋgwíʃt][形]著名な、すぐれた
6. *economist*[ikánəmist][名]経済学者
7. *point out*[句動詞]指摘する

Supplementary notebook

8. benefit[bénəfit][動]利益を与える
9. the common people[句]庶民

(4) [最上級の強調]《岐阜大》

Millennia 前、最初の *explorers* は、木製の船に乗って海上や、徒歩で *deserts* や *jungles* を旅していたが、彼らは今日の *scuba divers* や *high-altitude mountaineers* も使用するのと同じ *ancient* で *mysterious* な *device* を持ち歩いていた。それはアポロ 11 号が月に *landed* したとき、間違いなく最も *complicated* で、しかも最も *reliable* な *equipment* の一つであった。*entire* な *universe* の中で、人間の身体ほど *complex* な *system* はいまだ発見されていない。

【語彙リスト】

1. millennia[milénia][名]数千年(millennium の複数形)
2. explorer[ikspló:rər][名]探検家
3. desert[dézərt][名]砂漠
4. jungle[dʒʌŋgl][名]ジャングル
5. scuba diver[名]スキューバダイバー
6. high-altitude mountaineer[句]高地登山家
7. ancient[éinʃənt][形]古代の
8. mysterious[mistíəriəs][形]神秘的な
9. device[diváis][名]装置
10. land[lænd][動]着陸する
11. complicated[kámplikèitid][形]複雑な
12. reliable[riláiəbl][形]信頼できる
13. equipment[ikwípmənt][名]装備、機器
14. entire[intáiər][形]全体の
15. complex[kámpleks][形]複雑な

No 44.

【3】

(1)[比較対象の省略]《北海道大》

現在、*noise pollution* は地球温暖化や大気・水質汚染ほど *serious* な問題とは見なされていないかもしれない。*Nevertheless*、この状況が変わらなければ、*noise pollution* は社会を *disrupt* し、人間の健康を *damage* し、日常生活を今より *comfortable* でないものにし続けるだろう。

1. noise pollution[nóiz pəlu:ʃən][名]騒音公害
 2. serious[síəriəs][形]深刻な
 3. nevertheless[nèvərðələs][副]それにもかかわらず
 4. disrupt[disrʌpt][動]混乱させる
 5. damage[dæmidʒ][動]害を与える
 6. comfortable[kámfərtəbl][形]快適な
-

(2)[比較構文の特徴]《神戸大》

気候は非常に多くの *variables* — *carbon dioxide* の増減、*continents* の移動、太陽活動 — の産物なので、過去の出来事を *comprehend* するのは未来の出来事を *predict* するのと同じくらい難しい。多くのことは単に私たちの理解を超えている。南極大陸を例にとろう。*Antarctica* が南極点の上に *settled* した後、少なくとも二千万年間は植物に覆われ、氷がなく *free* な状態だった。それは本来あり得ないことだった。

1. variable[veəriəbl][名]可変要素
2. carbon dioxide[ká:rbən daiáksaid][名]二酸化炭素
3. continent[kántənənt][名]大陸
4. comprehend[kàmprihénd][動]理解する
5. predict[pridikt][動]予測する
6. Antarctica[æntá:rktikə][名]南極大陸
7. settle[sétl][動]落ち着く、定住する
8. free[frí:] [形]自由な、～がない

(3)[as/than 以下の代用]《大阪大》

ある物の感触は、その重さ、*texture*、*temperature* によって決まる。物を持ち上げたときの感触は、ただ押したり、指で *surface* を *rub* したときの感触とは異なる。身体中にある *sensory* な細胞が脳に *touch* に関する信号を送り、脳はそれらの信号を *interpret* する方法を理解している。

1. texture[tékstʃər][名]質感
2. temperature[témprətʃər][名]温度
3. surface[só:rfis][名]表面
4. rub[ráb][動]こする
5. sensory[sénsəri][形]感覚の
6. touch[tátʃ][名]触覚、感触
7. interpret[intó:rprət][動]解釈する

(4)[as/than 以下の倒置]《明治大》

Gravity や物質の状態のような *subjects* は古くて単純すぎて面白みに欠けると言う人もいる。しかし *in truth*、本当はどの科学もそれほど単純ではない。「私たちのほとんどは、ギリシャ人や古代の *Babylonians* が理解していなかったのと同じくらい、いやそれ以上に多くのことを日々理解せずに接している」と、私の *physicist* の友人はよく言う。「しかし私たちは、車のパワー *steering* の仕組みや、*polio vaccine* の製造法、オレンジジュースの *freezing* に関することについて、疑問を抱かなくなっている。科学の *effects* の一つが *curiosity* を *dampen* するという、*paradoxical* な状況に私たちは陥っているのだ。」

1. subject[sábdzikt][名]主題、科目
2. gravity[grævəti][名]重力
3. in truth[句]実のところ
4. Babylonian[b`æbəlóuniən][名]バビロニア人
5. physicist[fízisist][名]物理学者
6. steering[stíəriŋ][名]操縦装置、ハンドル操作

7. polio vaccine [póuliou væksí:n] [名] ポリオワクチン
 8. freezing [frí:ziŋ] [名] 凍結
 9. effect [ifékt] [名] 影響
 10. curiosity [kjùəriásəti] [名] 好奇心
 11. dampen [dæmpən] [動] 弱める、くじく
 12. paradoxical [pærədáksikəl] [形] 逆説的な
-

No 45.

(1) [no more ... than ~]

どんな modern な国も、何らかの形で科学・芸術・*literature* に貢献してきた。それぞれの国が、この世界の美しさや知識の *sum* に何かを加えてきたのである。音楽・芸術・科学は、*sunshine* や *rain* と同じように、政治的・地理的な *boundary* に従うことは *no more* ない。

1. contribute to A [kəntríbju:t] [動] A に貢献する
 2. literature [lítərətʃər] [名] 文学
 3. sum [sʌm] [名] 合計、総体
 4. observe A [əbzə:rv] [動] A を守る、順守する
 5. political [pəlítikəl] [形] 政治の
 6. geographical [dʒi:əgræfikəl] [形] 地理的な
 7. boundary [báundəri] [名] 境界
 8. sunshine [sʌnʃàin] [名] 日光
 9. rain [réin] [名] 雨
-

(2) [no more ... than ~]

もしあなたが、「自分は *virtuous* だから、*virtuous* な *company* を求める」という理由で友人を選ぶとしたら、それは「金銭的な理由で選ぶ」のと同じくらい、*true friendship* からは遠ざかっているのだ。*Besides*、あなたはいったい何様で、自分の *friendship* に *price* をつけられるというのか？

1. on the ground that SV [句] SV という理由で
 2. virtuous [vé:rtʃuəs] [形] 徳の高い
 3. company [kámpəni] [名] 仲間、交際
 4. near to A [níər] [形句] A に近い
 5. commercial [kəmə:rʃəl] [形] 商業的な
 6. true friendship [名句] 真の友情
 7. set a price upon A [句] A に値段をつける
 8. besides [bisáidz] [副] そのうえ
-

(3) [not ... any more than ~]

教育において *jazz* しながら進むことができないのは、人生において *jazz* しながら進むことができないのと同じくらい当然のことだ。その学びは常に、*severe* な *intellectual* な *discipline* — つまり、困難を *endure* し、それを受け入れて努力するということ —

を含んでいる。

1. jazz through A[句](比喩的に)Aをいいかげんにやり過ごす
2. involve A[invólv][動]Aを含む、伴う
3. severe[səvíər][形]厳しい、過酷な
4. intellectual[ìntələktʃuəl][形]知的な
5. discipline[dísəplin][名]規律、訓練
6. endure[ìndjúər][動]耐える、我慢する
7. acceptance[əkséptəns][名]受容、容認

(4) [no less ... than ~]

Reading は *mind* にとって、*food* が *body* にとってそうであるようなものだ。読書なしで済まそうとしても、*simply* それは無理である。逆に、吸収できる以上に読みすぎると、*appetite* を失うこともある。したがって、心も体と *no less* 同様に *injury* に *sensitive* だということを忘れてはならない。

1. reading[rí:diŋ][名]読書
2. mind[máind][名]心、精神
3. simply[símpli][副]単に
4. absorb[əbzó:rb][動]吸収する
5. appetite[æpətàit][名]食欲、欲求
6. sensitive[sénsətiv][形]敏感な
7. injury[ínɟəri][名]傷害、損傷

(5) [no less than A]

太陽と地球との距離は、*roughly speaking* 約 9300 万マイルある。仮に列車で太陽に向かって、昼も夜も休まず時速 40 マイルの *uniform* な速度で旅をしたとすると、*destination* に到達するまでにかかる時間は *no less than* 265 年にもなるだろう。

【語彙リスト】

1. roughly speaking[句]おおよそ言って
2. uniform[jú:nəfð:rm][形]一定の、均一の
3. require[rikwáíər][動]必要とする
4. no less than A[句]Aほども(多く)
5. destination[dèstənéiʃən][名]目的地

No 46.

[3]

(1) [The 比較級, the 比較級①]

しかし私たちは *annual* を学べば学ぶほど、自分たちが *merciful* な時代に生きていることを *rejoice* するようになる。この時代では *cruelty* は *abhor* され、たとえそれが *deserve* されたものであっても、*pain* は *reluctantly*、そして *a sense of duty* から *inflict* されるにすぎない。

1. annual[ænjuəl][名]年報、年代記

Supplementary notebook

2. rejoice that SV[riðʒóis][動]SVを喜ぶ
3. merciful[mé:rsəfəl][形]慈悲深い
4. cruelty[krú:əlti][名]残虐さ
5. abhor[əbhó:r][動]嫌悪する
6. deserve A[dizə:rv][動]Aに値する
7. inflict A[inflíkt][動]A(苦痛など)を与える
8. reluctantly[riláktəntli][副]いやいやながら
9. a sense of duty[句]義務感

(2) [The 比較級, the 比較級②]

人々が自分の仕事に対して持っている *control* が少ないほど、勤務中の *blood pressure* は高くなった。Moreover、家庭での *blood pressure* は仕事上の *control* の程度とは *unrelated* であり、勤務中の *spike* は、まさに *job* における *lack of choice* によって引き起こされたことを *indicate* している。

1. blood pressure[句]血圧
2. moreover[mɔ:rúvər][副]その上、さらに
3. unrelated[ʌnrələitid][形]無関係の
4. indicate that SV[índikèit][動]SVを示す
5. spike[spáik][名]急上昇、急騰
6. lack of choice[句]選択の欠如

(3) [The 比較級, the 比較級③]

人が興味を持つものが多いほど、より多くの *happiness* の *opportunities* があり、何かを失っても他のものに *fall back upon* できるため、*fate* の *at the mercy* になりにくくなる。

1. opportunity[əpɔ:tjúnəti][名]機会
2. at the mercy of A[句]Aに翻弄されて
3. fate[féit][名]運命
4. fall back upon A[句]Aに頼る

(4) [all the 比較級①]

感覚はもはや *supreme* な *means* ではなくなり、今や *affections* が *engaged* されており、周囲のものを *all the more* 愛するようになっている——それらが *familiar* だからだ。

1. supreme[su:prí:m][形]最高の
2. means[mí:nz][名]手段 ※単複同形
3. affection[əfékʃən][名]愛情
4. engaged[ingéidʒd][形]関与している
5. familiar[fəmíljər][形]親しみのある

Supplementary notebook

No 43.

(1) [最上級]

① When God created man and the beasts, He made a wide gap between them.

→ 神が人間と獣を創造したとき、神はその間に大きな隔たりを設けた。

◎文法解説:

- God を指す代名詞は He。H が大文字であることに注意。
- When S V, S V ...:「～するとき、…した」。時を表す副詞節。
- between them:「彼らの間に」。between は2者間。among は3者以上。

② The dog, seeing the gap, ran forward and leapt over to join the man.

→ 犬はその隔たりを見ると、前へ走り出て飛び越え、人間の側に加わった。

◎文法解説:

- seeing the gap:分詞構文。=「when the dog saw the gap」。
- ran forward:「前へ走った」。forward は方向の副詞。

③ This story tries to explain the special relationship between them.

→ この話は、彼ら(人と犬)の特別な関係を説明しようとしている。

◎文法解説:

- try to V:「～しようとする」。意図・努力。
- relationship between A and B:「AとBの関係」。between の目的語は2つ。
- explain:「説明する」。語源は *ex-*(外へ) + *planare*(平らにする) = 「外に平らに並べる」→「明らかにする」。

④ The dog was the first of the tamed animals and our close relationship since ancient times has made the dog the most responsive and obedient to his master of all the creatures.

→ 犬は飼いならされた動物の最初の存在であり、古代以来の私たちとの深い関係が、あらゆる生物の中で犬を最も反応がよく従順な存在にした。

◎文法解説:

- the first of the tamed animals:「飼いならされた動物の最初のもの」。限定詞 the + 序数 + of 構文。

Supplementary notebook

- has made O C:第5文型。make O C「OをCにする」。
 - the most responsive and obedient to his master of all the creatures:
 - the most ~ of all ...:「あらゆる…の中で最も~」。最上級構文。
 - responsive:「反応のよい」。respond(応答する)+ -ive。
 - obedient to A:「Aに従順な」。前置詞は to。
 - 比較対象は all the creatures(全生物)。
 - the most の前に by far を置けば更なる強調も可能(例:by far the most intelligent)。
-

(2) [one of the 最上級 複数名詞]

① Today Hong Kong has returned to Chinese control, but even now, it is not like other Chinese cities.

→ 今日、香港は中国の支配下に戻ったが、今でも他の中国都市のようではない。

◎文法解説:

- has returned:現在完了。過去の動作+現在の状態を示す。
 - not like other Chinese cities:「他の中国の都市のようではない」。like は前置詞。
-

② It seems that no matter who owns Hong Kong, it will always be a unique, and wonderful, place.

→ 誰が香港を所有しようとも、それは常に独自で素晴らしい場所であり続けるようだ。

◎文法解説:

- It seems that ...:「~のように思われる」。
 - no matter who ... は「誰が~しようとも」を表す譲歩の副詞節で、whoever ... に書き換え可能。
 - a unique, and wonderful, place:a から place までが名詞句で、It is の補語(C)。
 - ,(unique の前)と ,(wonderful の後)は、and で並列される2つの形容詞を「挿入句的に」際立たせるコンマ。=「a unique—and wonderful—place」。
-

③ The British played their best in shaping this city, and now it is the turn of the Chinese to make their impression.

→ イギリス人はこの都市を形づくるうえで最善を尽くした。そして今は中国人が自らの印象を残す番である。

◎文法解説:

- ・ played their best:「最善を尽くした」。play は「役割を果たす」。
- ・ it is the turn of A to V:「VするのはAの番だ」。
→ it は形式主語ではなく、前文「都市の発展という流れ(循環)」という状況全体を指している。

④ But whatever happens, Hong Kong will always be one of the most exciting, and one of the most fascinating, cities anywhere in the world.

→ しかし、何が起ころうとも、香港は常に世界のどこにあっても最も刺激的で魅力的な都市の一つであり続けるだろう。

◎文法解説:

・ whatever happens:譲歩の副詞節。「何が起ころうとも」。この whatever は副詞節を導く複合接続詞的用法。

※名詞節の whatever は “I’ll buy whatever you choose.” (=名詞節「あなたが選ぶものは何でも」)。

- ・ one of the most exciting, and one of the most fascinating, cities:
 - exciting の後の , は並列関係を明示し、後続の and 以下を視覚的に対比させる。
 - and により2つの最上級句「one of the most exciting」「one of the most fascinating」を並列している。
- ・ anywhere in the world:「世界のどこにでも」。副詞 anywhere。

(3) [the 最上級 (名詞) that S have ever 過去分詞]《中央大》

① Capitalism is the most successful wealth-creating economic system that the world has ever known;

→ 資本主義は、世界がこれまでに知ってきた中で最も成功した富を生み出す経済体制である。

◎文法解説:

- ・ Capitalism の語源: *capital*(資本) + *-ism*(主義) = 「資本を中心とする考え方」。
- ・ the most ~ that S have ever 過去分詞:「Sがこれまでに~した中で最も…な」。経験の最上級。
- ・ wealth-creating:「富を生み出す」。名詞 + 現在分詞で形成される複合形容詞。
→ このように 名詞 + 現在分詞(または過去分詞) は限定用法の形容詞となり、直後の名詞を修飾する(例: time-saving device)。
- ・ the world has ever known:現在完了。「これまでに世界が知った中で」。
- ・ semicolon (;) は2文を意味上強く結ぶ句読点。

② no other system, as the distinguished economist Joseph Schumpeter pointed out, has benefited “the common people” as much.

→ 卓越した経済学者シュンペーターが指摘したように、他のいかなる制度もそれほど庶民を利益させたことはない。

◎文法解説:

- as the distinguished economist Joseph Schumpeter pointed out:挿入句。接続詞 as は「~のように」。後続の節全体を修飾して「~が指摘したように」。
 - distinguished:「著名な」。語源 distinguish(区別する)+ -ed →「際立った」。
 - benefit A:「Aに利益を与える」。他動詞用法。
 - as much:「それほど多く」。この後には “as capitalism has benefited them” が省略されており、構文上は “no other system ... has benefited the common people as much (as capitalism has)” の形。
-

(4) [最上級の強調]《岐阜大》

① Millennia ago the earliest explorers, at sea in wooden boats or on foot in deserts and jungles, carried with them the same ancient mysterious device that scuba divers and high-altitude mountaineers use today.

→ 数千年前、最初期の探検家たちは、海では木の舟に乗り、砂漠や密林では徒歩で、今日スキューバダイバーや高山登山家が使うのと同じ古代の神秘的な道具を携えていた。

◎文法解説:

- the earliest explorers が主語、carried が動詞。
 - carry A with B が基本語順だが、ここでは carried with them A の倒置形で「Aを自分と一緒に運ぶ」。副詞句を間に挟むことで「携帯していた」ニュアンスを強調。
 - Millennia ago:「数千年前」。millennium(千年)の複数形。
 - at sea / on foot:前置詞句の対比(手段)。
 - device that scuba divers ... use today:関係代名詞節。「今日使う装置」。
-

② It was by far the most complicated yet most reliable piece of equipment aboard Apollo 11 when it landed on the moon.

→ それは、アポロ11号が月に着陸したとき、搭載されていた装置の中で断然最も複雑で、しかも最も信頼できるものだった。

◎文法解説:

- It は直前の device を指す。

- by far: 最上級を強調。「はるかに」「群を抜いて」。
 - the most A yet the most B: 「最も A であり、しかも最も B である」。等位接続的対比。
 - yet は接続副詞で「それにもかかわらず／同時に」を意味する。形容詞を対比的に結ぶ。
 - aboard Apollo 11: 「アポロ 11 号に乗って」。aboard = 「～に乗って」。
-

③ In the entire universe, no system more complex has ever been discovered than the human body.

→ 全宇宙で、人間の身体より複雑なシステムはこれまでに発見されたことがない。

◎文法解説:

- no system more complex has ever been discovered than ...: 「～ほど複雑な仕組みはこれまで見つかっていない」。
- more complex は形容詞句で no system を修飾している(=「より複雑なシステム」)。
- the entire universe: 「全宇宙」。entire = 「全体の」。
- has ever been discovered: 現在完了受動。「これまでに発見されたことがない」。

No 44.

(1) [比較対象の省略]《北海道大》

① At present, noise pollution may not seem as serious a problem as global warming or air and water pollution.

→ 現在のところ、騒音公害は地球温暖化や大気・水質汚染ほど深刻な問題には見えないかもしれない。

◎文法解説:

・ may not seem as serious a problem as ...:

- as serious a problem as ... は「…と同じくらい深刻な問題」。as 形容詞 a 名詞の語順に注意。

- as global warming or air and water pollution の as 以下は比較対象。

→ 省略されている語は as (noise pollution is)。比較の is が繰り返されないため、省略されている。は 2 回目を省略するのが自然(例: She is taller than I (am).)。

・ noise pollution: pollution(汚染)に noise(騒音)が限定している複合名詞。

② Nevertheless, if the situation remains unchanged, noise pollution will continue to disrupt society, damage human health and make our daily lives less comfortable.

→ それでも、状況が変わらなければ、騒音公害は社会を混乱させ、人間の健康を害し、私たちの日常生活をより不快なものにし続けるだろう。

◎文法解説:

・ Nevertheless: 接続副詞。「それにもかかわらず」。however よりも書き言葉的。

・ remain unchanged: 「変わらずにいる」。remain は状態を表す動詞。

・ disrupt / damage / make: 三つの動詞が and で並列。

・ make O C: 第5文型。「O を C にする」。ここでは our daily lives (O) + less comfortable (C)。less comfortable: 「より快適でない」= 比較級。比較対象は「現在の状態」(implied than they are now)。

(2) [比較構文の特徴]《神戸大》

① Climate is the product of so many variables — rising and falling carbon dioxide (CO₂) levels, the shifts of continents, solar activity — that it is as difficult to comprehend the events of the past as it is to predict those of the future.

→ 気候とは、二酸化炭素濃度の変動、大陸の移動、太陽活動など、非常に多くの要因の産物である。そのため、過去の出来事を理解することは、未来を予測するのと同じくらい難しい。

◎文法解説:

・ so many A that S V:「非常に多くの A なので S は V する」。結果を表す so that 構文。

・ as difficult to comprehend the events of the past as it is to predict those of the future.

- the past as it is の後では difficult が反復を避けるために省略されており、構文上は “as difficult ... as it is (difficult) to predict ...” が完全形。

② Much is simply beyond us.

→ 多くのことは単に私たちの理解を超えている。

◎文法解説:

・ beyond us:「我々の理解を超えて」。beyond は「範囲外」。

・ much は代名詞的に「多くのこと」。

③ Take Antarctica.

→ 南極大陸の例を考えてみよう。

◎文法解説:

・ Take A.:「A を例に取りなさい」。命令文。省略的提示句。

④ For at least twenty million years after it settled over the South Pole Antarctica remained covered in plants and free of ice.

→ 南極大陸は南極点に定着した後、少なくとも 2,000 万年間は植物に覆われ、氷のない状態にあった。

◎文法解説:

・ For at least twenty million years after ...:

- For + 時間表現 は「～のあいだずっと」を表す前置詞句であり、この文全体では副詞句として文頭に置かれている。

・ it settled over the South Pole:主語 it は Antarctica(南極大陸)を指す。

・ remained covered / free of ice:remain+過去分詞/形容詞＝「～のままである」。

・ free of A:「A のない」。

Supplementary notebook

⑤ That simply shouldn't have been possible.

→ それは本来ありえなかったはずだ。

◎文法解説:

- should have + p.p.:「～した(であった)はずだ/～すべきだったのに」。
 - That は直前の文全体を指す。
-

(3) [as/than 以下の代用]《大阪大》

① The way something feels depends on its weight, texture, and temperature.

→ 物の感触は、その重さ・質感・温度によって決まる。

◎文法解説:

- the way S V:「S が V する仕方」。
 - 名詞節では = how S V(例:I know the way he speaks. = I know how he speaks.「彼の話し方を知っている」)
 - 副詞節では = as S V(例:Do it the way I told you. = Do it as I told you.「私が言ったようにそれをしなさい」)
 - depends on A:「A に依存する」。
-

② When you pick something up, it feels different than it does if you simply push it or rub your fingers along its surface.

→ 何かを持ち上げると、それは、ただ押ししたり指でなでたりする場合とは違った感じがする。

◎文法解説:

- it feels different than it does ...:比較構文で it does が代用として使われている。
 - 本来は “it feels different than it feels if ...” だが、2 回目の feels が does に置き換えられている。重複を避けるために動詞を置き換える機能。
-

③ Sensory cells throughout your body send messages relating to touch to your brain, and your brain knows how to interpret those messages.

→ 体中の感覚細胞が触覚に関する情報を脳へ送り、脳はそれらの情報の解釈の仕方を理解している。

◎文法解説:

- send A to B:「A を B に送る」。A は messages relating to touch(触覚に関する

情報)。

- interpret:「解釈する」.[ɪntərprət](動詞)
 - how to interpret:「どのように解釈すべきか」。疑問詞+不定詞。
-

(4) [as/than 以下の倒置]《明治大》

① Some people say that subjects like gravity or the states of matter are too old and too simple to be interesting.

→ 重力や物質の状態のような話題は古くて単純すぎて面白くないという人もいる。

◎文法解説:

- too ... to V:「～すぎて V できない」。
 - the states of matter:「物質の状態」。
-

② But in truth, no science is really that simple.

→ しかし実際には、どんな科学もそれほど単純ではない。

◎文法解説:

- in truth:「実際には」。副詞句。
-

③ “Most of us are in daily contact with at least as much that we do not understand as were the Greeks or early Babylonians,” my friend the physicist likes to say.

→ 「私たちは、古代ギリシャ人やバビロニア人と同じくらい、理解できていない多くの事柄に日々接している」と、私の物理学者の友人はよく言う。

◎文法解説:

- at least as much that ... as ...:「…と同じくらい多くの(理解できない)こと」。
 - much は名詞で、「多くのもの」を意味し、with の目的語(= in daily contact with much)として機能している。
 - that we do not understand は関係代名詞節で that が先行詞 much を修飾している。
 - as were the Greeks or early Babylonians:倒置構文。本来は “as the Greeks or early Babylonians were”。as の後で補助動詞 were を前に出して倒置にしている。
-

④ Yet we have learned not to ask questions about how the power steering on our cars works or how polio vaccine is made or what is

Supplementary notebook

involved in the freezing of orange juice.

→ それでも、私たちは、車のパワーステアリングがどう働くか、ポリオワクチンがどのように作られるか、オレンジジュースが凍るときに何が起こるのか、という疑問を持たないようになっている。

◎文法解説:

- Yet: 逆接の接続副詞。「それにもかかわらず」。前文を受けて対比を導く。
 - how / what 以下は名詞節で、about の目的語になっている。
 - is involved in ...: 「～に関わっている」。受動構文。
-

⑤ We end up in the paradoxical situation in which one of the effects of science is to dampen curiosity.

→ そして結局、科学の効果の一つが好奇心を鈍らせるという逆説的な状況に陥る。

◎文法解説:

- end up in A: 「最終的に A という結果に至る」。
- in which: 関係副詞。先行詞は situation。
- to dampen curiosity: 「好奇心を弱める」。目的を表す不定詞。

No 45.

(1) [no more ... than ~]

①There is not any modern nation but has, in some way, contributed to our science or art or literature.

→ 何らかの形で、私たちの科学・芸術・文学に貢献していない現代国家は一つもない。

◎文法解説:

- There is not any A but has V ≡ *There is no A that has not V* に相当。
 - but は接続詞で、ここでは that ... not の意味をもつ。
この用法は 文語的・古風 で、二重否定による強い肯定を表す。
 - in some way: 「何らかの形で」。方法をぼかす副詞句。
 - contribute to A: 「A に貢献する」。to は方向・寄与先。
-

②Each country has given something to the sum of beauty and knowledge of the world.

→ どの国も、世界の美と知の総体に何かを与えてきた。

◎文法解説:

- each country: 単数扱い。
 - the sum of A and B: 「A と B の総体」。抽象名詞の集合的用法。
 - something: 内容を限定しない代名詞。
-

③Music and art and science do not observe political or geographical boundaries any more than do the sunshine and the rain.

→ 音楽・芸術・科学が政治的・地理的境界を守らないのは、太陽の光や雨がそれを守らないのと同じである。

◎文法解説:

- observe A: 「A を守る／遵守する」。語源: *ob-*(～に向かって) + *servare*(見守る) → 「注意深く守る」→ 「規則・境界を守る」。
- not ~ any more than ~: → A が～でないのは、B が～でないのと同じ。
→ A も B も否定される比較。

(1) He is not a poet any more than I a king.

「彼が詩人でないのは、私が王でないのと同じだ」

(2) This explanation does not solve the problem any more than guessing does.

「この説明が問題を解決しないのは、当てずっぽうが解決しないのと同じだ」

- do the sunshine and the rain: 比較節での 倒置。
元の形: *than the sunshine and the rain do (observe boundaries)*.

(2) [no more ... than ~]

① If you choose your friends on the ground that you are virtuous and want virtuous company, you are no nearer to true friendship than if you choose them for commercial reasons.

→ 自分が徳のある人間で、徳のある仲間を求めているという理由で友人を選んでも、営利的理由で選ぶ場合と比べて、真の友情に近づくわけではない。

◎文法解説:

• on the ground that SV: 「SV という理由で」。that は名詞 *ground* の内容を示す同格の *that*。≡ 言い換え: *because SV / on the basis that SV*。

• no nearer to A than B: 「B の場合と比べて A に近いわけではない」。
→ A にも B にも等しく到達していない。

• than if you choose them for commercial reasons:

完全形は

than (you are nearer to true friendship) if you choose them ...

→ 比較される語句が省略されている。

(1) He is no happier living in the city than if he lived in the countryside.

「彼は都会に住んでいても、田舎に住んでいる場合と比べて、少しも幸せではない」

完全形: He is no happier living in the city than (he would be happy) if he lived in the countryside.

• than if ~ 「もし SV だった場合と比べて」

(2) She felt no more nervous speaking in public than when she spoke in front of her classmates.

「彼女は人前で話すときも、クラスメートの前で話すときと比べて、これ以上緊張することはなかった。」

完全形: She felt no more nervous speaking in public than (she felt nervous) when she spoke in front of her classmates.

・than when ~「もしSV だったときと比べて」

② Besides, who are you that you should be setting a price upon your friendship?

→ そのうえ、友情に値段をつけるとは、あなたはいったい何者なのか。

◎文法解説:

・ Besides: 接続副詞「そのうえ」。 ※ beside(前置詞「～のそばに」とは別。

同意語: *Moreover / Furthermore / In addition.*

・ who are you that SV:

→ 「SV するとは、あなたはいったい何者だ」。that 節は判断・評価の根拠を示す副詞節。

・ should be Ving: should は「非難」「皮肉」を表す。進行形になっているのは、行為が「継続的・態度的」であることを強調。

(3) [not ... any more than ~]

① It still remains the truth that one cannot jazz through education any more than one can jazz through life.

→ 教育をいい加減に切り抜けられないのは、人生をいい加減に切り抜けられないのと同じだという真理はいまなお成り立っている。

◎文法解説:

・ the truth that SV: that 節は the truth の内容を説明する「同格の that」。

・ It: 形式主語ではない。文頭を軽くするために置かれた 構文保持の it。

・ 文の骨格:

→ *The truth remains.*

→ *The truth that SV remains.*

→ *It remains the truth that SV.*

・ not ... any more than ~:

A も B も否定される比較構文。

② The learning must always involve a severe intellectual discipline—an enduring of hardness and a cheerful acceptance of difficult work.

Supplementary notebook

→ 学びとは常に、厳しい知的鍛錬——困難に耐え、難しい仕事を前向きに受け入れること——を伴う。

◎文法解説:

- must involve A:「A を必ず伴う」。
 - —(ダッシュ):同格説明。
 - an enduring / an acceptance:動名詞の名詞化による並列。
-

(4) [no less ... than ~]

①Reading is to the mind what food is to the body.

→ 読書が心にとって必要なのは、食物が身体にとって必要なのと同じだ。

◎文法解説:

- A is to B what C is to D:「A の B に対する関係は C の D に対する関係と同じだ」

(1)Air is to humans what water is to fish.

「空気が人間に不可欠なのは、水が魚に不可欠なのと同じだ。」

(2)Words are to thought what tools are to work.

「言葉が思考にとって不可欠なのは、道具が仕事にとって不可欠なのと同じだ」

②If you try to do without it, you simply cannot.

→ それなしで済まそうとすれば、単純に不可能だ。

◎文法解説:

- do without A:「A なしでやる」。
 - cannot: 完全形は *cannot do without it*。
-

③On the other hand, if you try to read more than your system can absorb, you can easily lose your appetite for reading.

→ 一方で、消化できる以上に読もうとすると、読書への意欲を失ってしまう。

◎文法解説:

- on the other hand:「一方では」。対比。
 - more than S can V:「S が V できる以上に」。
 - lose one's appetite for A: 比喩的に「A への意欲・関心を失う」。
-

④You must remember, therefore, that your mind is no less sensitive to injury than your body.

→ したがって、心もまた身体と同じくらい傷つきやすいことを忘れてはならない。

◎文法解説:

• no less A than B: → A も B も同程度に肯定。

(1) Her kindness was no less impressive than her intelligence.

「彼女の優しさは、知性と同様に印象的だった」

(2) This experience was no less valuable than the knowledge he gained from books.

「この経験は、彼が本から得た知識と同様に価値があった」

(5) [no less than A]

① The distance of the Sun from the Earth is, roughly speaking, ninety-three millions of miles.

→ 太陽と地球の距離は、およそ 9,300 万マイルである。

◎文法解説:

• roughly speaking: 「大まかに言えば」。

• the distance of A from B: 「A と B の距離」。

② If it were possible to travel to the Sun in a railway train ... it would require no less than two hundred and sixty-five years to reach its destination.

→ 仮に列車で太陽へ行けたとしても、到着までに実に 265 年もかかるだろう。

◎文法解説:

• If it were possible ..., it would require ...: 仮定法過去。

• no less than A: 「実に A も」。数量の強調。

No 46.

(1) [The 比較級, the 比較級①]

①But the more we study the annals of the past, the more shall we rejoice that we live in a merciful age, in an age in which cruelty is abhorred, and in which pain, even when deserved, is inflicted reluctantly and from a sense of duty.

→ しかし、過去の年代記を研究すればするほど、私たちは、残酷さが忌み嫌われ、たとえ正当な場合であっても痛みが義務感から、しかもいやいやながら与えられるような、慈悲深い時代に生きていることを、いっそう喜ぶようになる。

◎文法解説:

- the 比較級, the 比較級:「～すればするほど、ますます…」。比例関係を表す構文。
 - the more shall we rejoice:
 - 本来は *we shall rejoice more*。比較級句が文頭に出たため 倒置が起こっている。shall は文語的・修辭的な強調で、強い感情的帰結を示す。
 - rejoice that SV:「SVであることを喜ぶ」。that は接続詞で、動詞 rejoice の目的語となる名詞節を導く。
 - in an age in which …:関係代名詞 which による後置修飾。
 - cruelty is abhorred:受動態。「残酷さが忌み嫌われる」。
 - even when deserved: → 完全形は *even when it is deserved*.
 - 副詞節中の S + be の省略。
 - is inflicted reluctantly and from a sense of duty:
 - 方法(reluctantly) + 理由(from a sense of duty)の並列。
-

(2) [The 比較級, the 比較級②]

①The less control people had over their work, the higher their blood pressure during work hours.

→ 人々が仕事に対して持つ裁量が少なければ少ないほど、勤務時間中の血圧は高くなった。

◎文法解説:

- 元の語順:people had less control over their work.
 - 比較級句 the less control が文頭に出たため倒置。
- the higher their blood pressure during work hours:

→ 完全形は *their blood pressure during work hours was higher*.

→ the 比較構文では be 動詞が省略されることがある。

(1) The higher the price, the lower the demand.

「価格が高ければ高いほど、需要は低くなる」

完全形: The higher the price is, the lower the demand is.

(2) The more difficult the task, the greater the satisfaction.

「課題が難しければ難しいほど、満足感は大きい」

完全形: The more difficult the task is, the greater the satisfaction is.

・ during work hours: 「勤務時間中に」。

② Moreover, blood pressure at home was unrelated to the level of job control, indicating that the spike during work hours was specifically caused by lack of choice on the job.

→ さらに、自宅での血圧は仕事上の裁量の度合いとは無関係であり、勤務時間中の急上昇が、職場での選択の欠如によって特に引き起こされていたことを示している。

◎文法解説:

・ Moreover: 接続副詞「さらに」。

・ be unrelated to A: 「A と無関係である」。

・ indicating that SV: 分詞構文。主節全体を受け、結果・解釈を補足。

・ the spike during work hours: spike 「急上昇」。後置修飾。

(3) [The 比較級, the 比較級③]

① The more things a man is interested in, the more opportunities of happiness he has and the less he is at the mercy of fate, since if he loses one thing he can fall back upon another.

→ 人が関心をもつ事柄が多ければ多いほど、幸福の機会は増え、運命に左右されにくくなる。なぜなら、一つを失っても、別のものに頼ることができるからである。

◎文法解説:

・ The more things a man is interested in: 元の形は *a man is interested in more things*.

・ the more opportunities of happiness he has and the less he is at the mercy of fate: 元の形は *he has more opportunities of happiness and he is less at the mercy of fate*.

→ 2つの主節が and により並列。

Supplementary notebook

- be at the mercy of A:「Aに翻弄される」。
 - since:理由を表す接続詞。
 - fall back upon A:「Aに頼る／代替として用いる」。
-

(4) [all the 比較級①]

①The senses are no longer the supreme means of enjoyment, but the affections are engaged, and we love the things around us all the more because they are familiar.

→ 感覚はもはや最高の享樂の手段ではなく、感情が関わるようになり、私たちは身近なものを、それらがなじみ深いがゆえに、いっそう愛するのである。

◎文法解説:

- no longer:「もはや～ない」。
- but:等位接続詞。対比。
- the affections are engaged:
→ engage「関与させる」。受動で「感情が関わる」。
- all the 比較級 + because SV:
→ 「SVであるがゆえに、それだけいっそう…」。

(1)She trusted him all the more because he had always told her the truth.

「彼女は、彼がいつも真実を語ってきたがゆえに、いっそう彼を信頼した」

(2)The story was all the more moving because of its connection with real events.

「その物語は、実際の出来事とのつながりがあったがゆえに、いっそう感動的だった」

(3)We admired her all the more for her courage in the face of danger.

「私たちは、危険に直面しても勇敢であったがゆえに、彼女をいっそう敬意をもって見た」

◇ 名詞の文中での役割

名詞は文中で主語(S)・目的語(O)・補語(C)、同格(A: apposition) を作ることがある。※ 前置詞が付いた場合、その名詞は 修飾語(M)となる。

① 名詞が【主語(S)】になる…文の中心となり、動作・状態の主体を表す。

The child smiled. その子どもは微笑んだ。

② 名詞が【目的語(O)】になる…目的語は 2 種類 に分かれる

(A) 他動詞の目的語【O】

…動詞が直接要求する目的語。

She opened the window. 彼女は窓を開けた。

(B) 前置詞の目的語【O】…前置詞の直後に置かれ、前置詞の意味を完成させる名詞。

She sat on the chair. 彼女はその椅子に座った

③ 名詞が【補語(C)】になる…主語・目的語の内容を説明・同一化する名詞。

(主格補語)

He became a doctor. 彼は医者になった。

(目的格補語)

They elected him president. 彼らは彼を大統領に選んだ。

④ 前置詞+名詞は【修飾語(M)】になる…前置詞句は、文の骨格(SVC / SVO)には含まれない。

The man with glasses is my uncle. 眼鏡をかけたその男性は私のおじだ。

→ with glasses = M(名詞修飾)

⑤ 名詞は【同格】になることがある…同格は 3 種類 に分かれる

(A) that 節による同格…名詞の内容を that 節 が説明する。

The fact that he lied shocked everyone.

彼が嘘をついたという事実は、皆を驚かせた。

・ The fact = S / that he lied = 同格の that 節

(B) 名詞, 名詞(同格)…同一のものを、別の名詞で言い換える。

Mr. Smith, our teacher, entered the room.

私たちの先生であるスミス氏が、その部屋に入ってきた。

Supplementary notebook

• Mr. Smith = S / our teacher = 同格

👉 どちらも同一人物

(C) 再帰代名詞(名詞 + 再帰代名詞)による同格…「～自身」という意味で、名詞を強調・同格説明する。

The president himself attended the meeting.

大統領自身がその会議に出席した

• The president = S / himself = 同格(強調)

👉 The president = himself

◇ 形容詞の文中での役割

形容詞は文中で① 名詞を修飾する、② 補語(C)になる、③ 分詞構文を作るという 3つの働きをもつ。

① 形容詞が【名詞を修飾】する…名詞の性質・状態・内容を説明する。

(A) 通常の形容詞(前置修飾)

a happy child 幸せそうな子ども ※happy = 形容詞(名詞修飾)

(B) 現在分詞の名詞修飾(能動・進行)

a crying baby 泣いている赤ちゃん ※crying = 現在分詞(名詞修飾)

(C) 過去分詞の名詞修飾(受動・状態)

a broken window 割れた窓 ※broken = 過去分詞(名詞修飾)

(D) 後置修飾(形容詞/分詞+語句)

名詞を修飾する語句が長い場合、形容詞や分詞は 名詞の後ろ に置かれる。

the work necessary for success 成功に必要な仕事

→ necessary for success = 名詞修飾(形容詞)

a girl singing in the room 部屋で歌っている少女

→ singing in the room = 名詞修飾(現在分詞)

a letter written in French フランス語で書かれた手紙

→ written in French = 名詞修飾(過去分詞)

② 形容詞が【補語(C)】になる…主語・目的語の 状態や性質を説明 する。

(主格補語)

The baby is asleep. その赤ちゃんは眠っている。

The door is closed. そのドアは閉まっている。

(目的格補語)

We found the room empty. 私たちはその部屋が空だとわかった。

They left the door locked. 彼らはドアを鍵がかかったままにしておいた。

③ 形容詞が【分詞構文】になる

形容詞・分詞が文頭(または文中)に置かれ、主節全体を修飾して理由・時・条件・状態などを表す。

(A) 分詞で始まる分詞構文

Walking along the river, I met an old friend.

川沿いを歩いていると、私は旧友に会った。

Surprised by the news, she said nothing.

その知らせに驚いて、彼女は何も言わなかった。

(B) 形容詞で始まる分詞構文

Tired and hungry, he sat down on the bench.

疲れて空腹だったので、彼はベンチに腰を下ろした。

Calm and confident, she answered the questions clearly.

落ち着いて自信に満ちて、彼女ははっきりと質問に答えた。

🔑 分詞構文と名詞修飾との違い

The students tired after practice went home early.

練習後に疲れていた生徒たちは、早く帰宅した。

→ tired after practice = 名詞修飾

Tired after practice, the students went home early.

練習後で疲れていたため、生徒たちは早く帰宅した。

→ Tired after practice = 分詞構文

👉 修飾対象が「名詞」か「文全体」かで判断する